

# 日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 96  
2019年

2019年度全国大会開催案内

発行 日本庭園学会(会長 佐々木邦博)  
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1  
東京農業大学 地域環境科学部  
造園科学科 庭園文化研究室内  
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)  
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

## 2019年度 日本庭園学会全国大会 開催案内

2019年度の全国大会は、「江戸の大名庭園から近代庭園へ」(予定)をテーマに開催することになりました。  
詳細は、本誌次号にてお知らせします。

### 記

#### ■日程

2019年6月15日(土) 16日(日)

#### ■内容

2019年6月15日(土)

午前 現地検討会

(東京メトロ雑司ヶ谷駅集合、徒歩で回ります)

午後 現地検討会 小石川後楽園(現地集合)

夕方 情報交換会

2019年6月16日(日)

午前 研究発表会、総会、学会賞受賞者講演会

午後 公開シンポジウム

「江戸の大名庭園から近代庭園へ」(予定)

#### ■会場

現地検討会 午前 山吹の里碑、甘泉公園、肥後細川庭園、  
椿山荘、大隈庭園 等

午後 小石川後楽園(整備事業について)

情報交換会 小石川後楽園涵徳亭(予定)

改修中の場合は日中友好会館

研究発表会、総会、学会賞受賞者講演会、

公開シンポジウム

東京大学農学部中島薫一郎記念ホール

公開シンポジウム

昨年度は、明治維新150周年で明治維新後の日本の歩みに注目が集まり近代建築、近代庭園に注目が集まりました。明治維新に伴い大名屋敷は引き払われ役所や政府要人の邸宅等となり、大名庭園は明治時代に引き継がれます。その後の都市化に伴い多く大名庭園が失われましたが近代庭園として引き継がれた庭園も多く、東京の広がりに伴い高台に建設された邸宅に近代庭園が造園されました。東京の江戸時代から明治時代、大名庭園は近代庭園へどう引き継がれ近代庭園はどのように展開し現在に至るか検討したいと思います。

#### <問い合わせ>

宮内泰之(日本庭園学会 総務担当)

電話: 042-376-8602 メール: [miya@keisen.ac.jp](mailto:miya@keisen.ac.jp)

## 2019年度全国大会研究発表会での発表の申込みについて

2019年度の研究発表会で発表を希望する方は、下記の要領でお願いいたします。  
発表時間は、ひとりあたり20分とし、発表15分、質疑応答5分を予定しています(変更する場合があります)。  
また、発表にはPCプロジェクターの使用が可能です。

## 記

## ■ 発表申込み期限

2019年5月17日(金)

## ■ 申込み方法

発表者氏名・所属・題名・連絡先を明記し、発表概要(200字程度)を添付のうえ右記の「申込・問合せ」までお送りください。

原則的にはEメールとしますが、郵送もしくはFAXでもかまいません。

## ■ 申込・問合せ

宮内泰之(日本庭園学会 総務担当)

電話:042-376-8602 メール:miya@keisen.ac.jp

## 平成30年度関西大会現地検討会 レポート

平成30年11月3日(土)に奈良県奈良市で平成30年度関西大会の現地検討会が行われ、特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園と名勝旧大乘院庭園、そして奈良公園高畑町裁判所跡地庭園の見学を行った。

特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園では、まず発掘調査から現在に至るまでの経歴や、露出展示を行っている庭園遺構の修理について説明していただいた。その後、実際に修理作業を行っている現場に入れていただき、施工業者の方による具体的な再整備工事内容の説明を伺いながら、見学を行った。庭園遺構の露出展示は実物をそのまま見ることはできるが遺構の劣化が課題となり、また、埋め戻して復元展示をすれば遺構を守ることはできるが、実物を見ることができなくなってしまう。庭園の整備にあたっては、保存と活用のバランスの設定をどうするかが重要となるのだろうと強く感じた。

名勝旧大乘院庭園では、旧大乘院庭園の概要や明治以後の保存の歩み、そして整備事業についての説明を伺うことができた。庭園は「大乘院庭苑四季眺望真景図」の描かれた江戸時代を整備の対象としており、検出した遺構に位置と規模をあわせた休憩施設や園池の形状など、絵図に描かれた様子を可能な範囲で復元するかたちで整備されていた。園路には落ち葉がほとんど見られず、また、庭園の大部分が芝張となっていたが手入れが行き渡っており、丁寧に管理がされているという印象を受けた。

奈良公園高畑町裁判所跡地では、高畑町裁判所跡地の整備計画や高畑町裁判所跡地の成り立ち、そして庭園の調査結果について説明を伺いながら現地を見学した。現在は庭園の修復や整備が行われておらず竹林が繁茂していたが、庭園調査の結果や現況の様子から、往時の庭園の様子を想像し意見を交換した。修復整備が完了した暁には、ぜひ再度来訪したいと感じた。

私は特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の整備業務の担当をしているが、一乗谷朝倉氏遺跡も一番初めの整備から約50年が経過し、再整備という課題に直面している状態である。今回の現地検討会では、庭園修理の手法や課題などについての具体的なお話を伺いながら、庭園の保存活用に関わる事例を実際に見学し、大変有意義な時間を過ごすことができた。今後、この経験を活かしながら一乗谷朝倉氏遺跡の整備業務に取り組んでいきたいと思う。



大竹桃子  
(福井県立一乗谷朝倉氏  
遺跡資料館)

再整備が進む  
平城京左京三条二坊宮跡庭園

## 平成30年関西大会研究発表会・シンポジウム レポート 1

関西大会2日目の研究発表・シンポジウムでは、庭園の調査から整備、そして活用までの流れが全て詰まったものであり、大会を通して一体感のある内容の濃いものとなった。

研究発表では鹿苑寺四十五尺の滝の調査報告と育徳園の橋に関する調査報告は今後に期待するものが大きく、発掘や史料調査の成果をふまえての長江家庭園の復原整備において庭園の変遷の考察における発掘調査の有用性は明らかであった。廣誠院の継承のための価値付け、そしてマーケティングの視点から見たアンケート調査は庭園の活用においてそれぞれの庭園や地域に合った内容・方法を模索する手段となり得るだろう。

シンポジウムでは「奈良の庭園をめぐる」と題し、平城京左京三条二坊宮跡庭園を事例とした小野健吉氏による発掘庭園の整備と再整備、高橋知奈津氏によって豊富な事例を挙げた奈良市における庭園の総合調査についての2つの基調報告が行われた。コメンテーターに考古学を専門とする杉本宏氏を迎えての質疑応答では、遺跡の展示についてと整備後の庭園の管理について熱く議論が交わされた。特に印象的であったのは、新たな専門家の育成である。遺跡の保存について、整備後の状態を維持していくためには日常的な管理が重要であるという小野氏の主張から、「史跡キーパー」という専門技術者が杉本氏によって提案された。これは遺跡に関する知識や補修に関する技術を持つ人が遺跡に常駐し、常日頃から管理をするシステムであるという。このような専門技術者を置くことで、遺跡に限らず庭園の保存管理が向上し、また庭園の破損原因の究明や整備方法の課題が明らかになるであろう。さらには大規模な再整備が必要になる年月の間隔を延ばすことも可能になるかもしれない。そして杉本氏は奈良の庭園調査をふまえ、今後は近代の庭園が脚光を浴びるようになること、そして近代庭園の変遷の複雑さを指摘し、近代に特化した考古学の必要性を提示した。現在の考古学では近代の分析が不十分であることから、小野氏はマニュアルの作成、指導が必要であることを指摘した。

このように日常的な管理や近代を対象とする考古学の必要性が明らかとなったが、これらの提案が現実のものとなるには教育や制度、人材など様々な面で課題があるだろう。ひとつひとつクリアしていくためにも、学会でのさらなる熱い議論・検討を期待したい。

白木朝乃

(京都造形芸術大学大学院博士課程)



研究発表会の様子



シンポジウムと研究発表の会場  
(新築の奈良文化財研究所)

今回、平成30年度日本庭園学会関西大会に2日間参加した。現地検討会と研究発表会に参加し、あらゆる視点から考察した保全に関わる修復や処置、整備、管理について深い学びができたと感じる。

現地検討会では、特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園、名勝旧大乘院庭園、奈良公園高畑町裁判所跡地庭園を訪れ見学をした。特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園では露出展示に伴い、庭石の劣化状況やこれからの活用に関して大規模な整備が行われていた。その中でも、奈良時代以来の景石の据え付けの作業が行われ、景石の強化処置、その後の正確な据え直しには現代技術と伝統技術の融合によって整備が進められていた。約30年前の調査から、今回の調査にかけて石材強化の薬品や測量着技術等の科学技術の進歩により可能な整備の幅が広がったことを再認識するいい機会となった。名勝大乘院庭園では、島や池の構成が特徴的であり池の周りを回遊しつつ見学することが出来た。西小池西側ではトレンチした調査地区の段差をそのまま利用しており、調査遺構の面を際立たせて見せているように感じた。

また、平城遷都1300年を記念し9年前から一般公開されており、地域住民の憩いの場になる活用方法についても考えることが出来た。奈良公園高畑町裁判所跡地庭園では、整備前の庭園を見つつ当時の様子を想像し話し合う面白い時間となった。今後の整備が進められる中で、整備途中の様子や整備終了についての活用を通して、変化を見てみたいと感じた。

3つの庭園を訪れ、整備前、整備中、整備後の過程を現地で見学することが出来た。現代技術と伝統技術を融合することで遺跡に対して、適切で可逆性を有した景石の据え直しや強化が行われ緻密な作業が行われているこ

とや、整備後でも芝や水の影響により、護岸の整備が行われ池の中で洲浜を形成することもある。それぞれの庭園において周辺環境が違う中で、修復整備をしていくことは難しい課題であると感じる。遺跡の露出展示をするにあたり、遺跡自体は地面に眠っている時間の方が長い。露出をすることにより自然的影響や人為的影響によって元の形を完璧に保全していくことは難しく、強化したモノにもいずれば損傷が出る。マニュアル化ができない中で、庭園に合わせた処置や活用管理について、現代技術・伝統技術を積極的に取り入れ柔軟に対応し、実行できる知識と技量が今後必要になると考えるいい機会であった。2日間貴重な機会を設けていただきありがとうございます。

吉村悠

(京都産業大学文化学部京都文化学科)



名勝旧大乘院庭園



## 第13回日本庭園学会賞の募集のお知らせ

この度、日本庭園学会では、日本庭園や日本庭園に関わる研究に関する業績を顕彰するために、日本庭園学会賞を設けました。今年度は第8回の募集をおこないます。

審査の対象は、論文など学術に関すること、庭園技術や技能に関すること、庭園に関する著作等です。著作等には、映像や写真も含まれます。

応募締め切りは、平成31年2月28日（必着）です。なお、応募書類は返却しません。

この賞は会員ばかりでなく、会員の推薦する者も学会賞の対象者になりますので、庭園学の発展のために、自薦、他薦を含めまして、ぜひご応募のほどをお願いいたします。

平成30年12月 学術委員会委員長 藤井 英二郎

## 日本庭園学会賞 募集要項

- |  |   |
|--|---|
| <p>1. (目的) 日本庭園およびそれにかかわる研究に関する業績を顕彰するため。</p> <p>2. (対象者) 日本庭園学会員または学会員の推薦する者。</p> <p>3. (対象) 学術：庭園に関する論文で、庭園学の発展に貢献した者。<br/>         技術：庭園に関する計画・設計・施工、維持管理・運営、遺跡調査、復元、整備、修理等庭園技術および技能の発展に献じた者。<br/>         著作等：庭園に関する著作、映像、写真等の業績が極めて優れていると認められた者。また、各種活動により庭園学の発展に寄与した者。<br/>         なお、他に奨励賞を設けることができる。</p> <p>4. (表彰) 総会で学会長が授与し、その内容を日本庭園学会誌に公表する。</p> | <p>5. (応募) 授賞対象者は学会員または学会員の推薦する者とする。<br/>         推薦者は別紙に定めた「日本庭園学会賞推薦応募書」と選考に必要な資料を添えること。</p> <p>■ 応募書等の送付先：<br/>         〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1<br/>         東京農業大学地域環境科学部造園科学科<br/>         ガーデンデザイン研究室気付<br/>         日本庭園学会総務担当</p> <p>■ 応募に関する問い合わせ先： 信州大学農学部<br/>         佐々木邦博<br/>         Tel &amp; Fax 0265-77-1500 (直通)<br/>         E-mail ksasaki@shinshu-u.ac.jp</p> |
|--|---|

## 【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：中野理香、小椋菜美（植彌加藤造園株式会社）

## 日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342